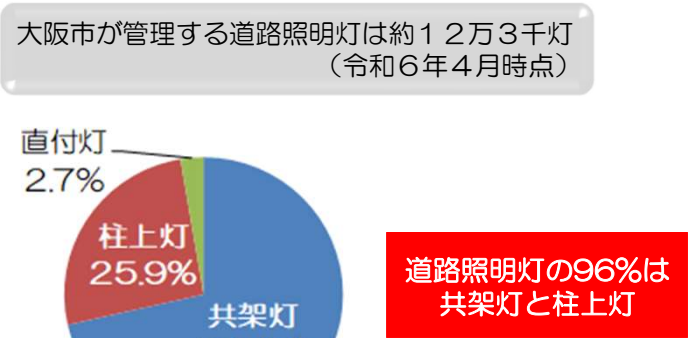


1. 対象施設

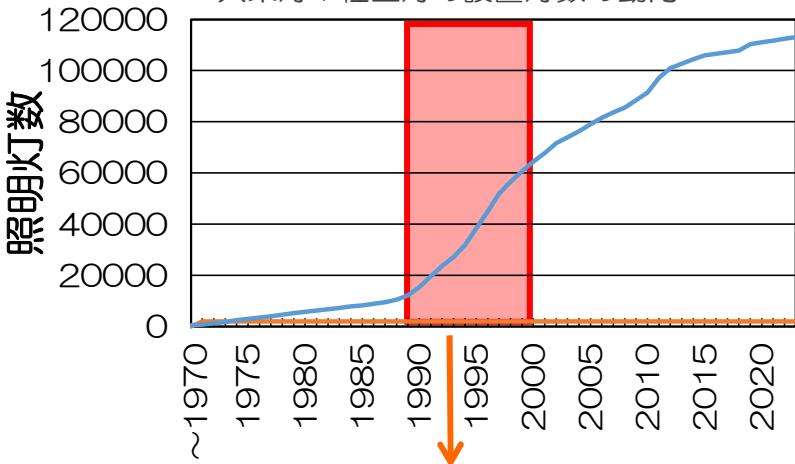
道路照明灯数の現状および特性



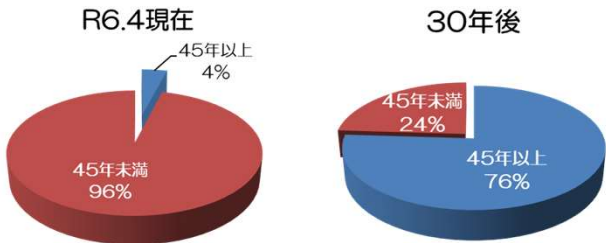
施設特性

- ① 灯具（鋼製）、支柱（鋼製）、基礎（コンクリート）などの組合せで構成される単純な構造
- ② 接続部の状況や腐食損傷等の有無の確認が外観点検で可能
- ③ 設置環境や条件によって一般的な耐用年数の前に局所的に表面上の腐食が生じることがある

共架灯+柱上灯の設置灯数の動向



1990年代に照明灯数が急増したため、30年後には7割以上が設置後45年を超過



設置後45年以上経過した道路照明灯割合

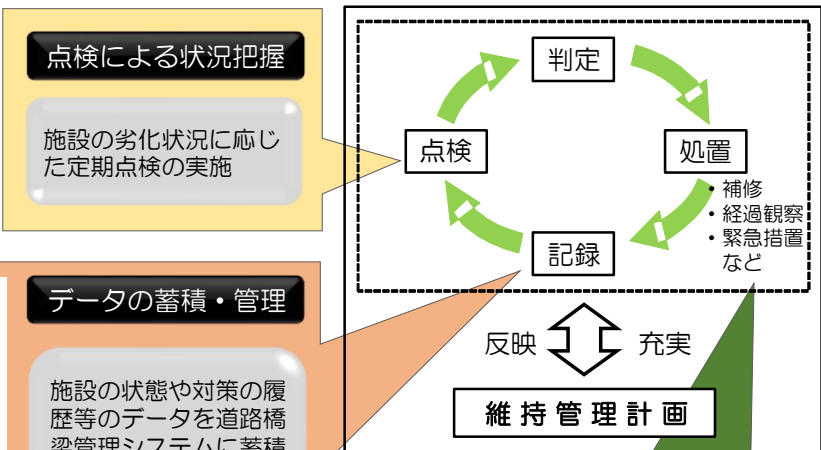
2. 維持管理方針

予防保全（時間計画型）を基本とした管理

道路照明灯は損傷、腐食その他の劣化や異常が生じた場合に道路の構造または交通に大きな支障を及ぼす恐れがあるため、維持においては損傷が大きくなってから補修する「事後保全」ではなく、『**予防保全（時間計画型）**』を基本としながら、点検結果の状態を把握（監視）し、状態の良好なものについては適時更新時期を考慮した維持管理を行う。

予防保全を実現するための仕組み

メンテナンスサイクルの構築



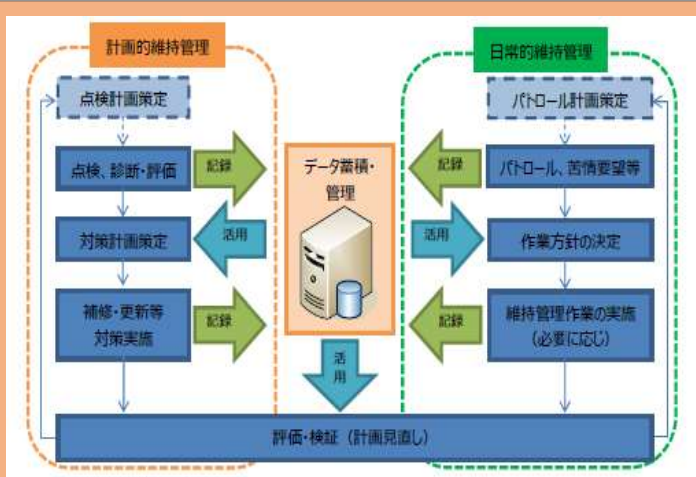
データの蓄積・管理

施設の状態や対策の履歴等のデータを道路橋梁管理システムに蓄積して次回点検や劣化予測に活用

工営所と設計担当課にて情報の共有を図り、効率的な維持管理を実施

対策の優先順位

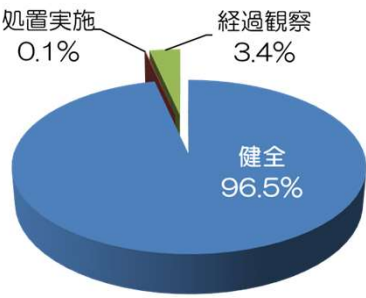
点検による健全性の把握を行い、劣化による第三者被害への影響や照明灯機能に支障を及ぼす恐れなどのリスクに着目して優先順位を定めて効率的・効果的に対策を実施



3. 施設の状態

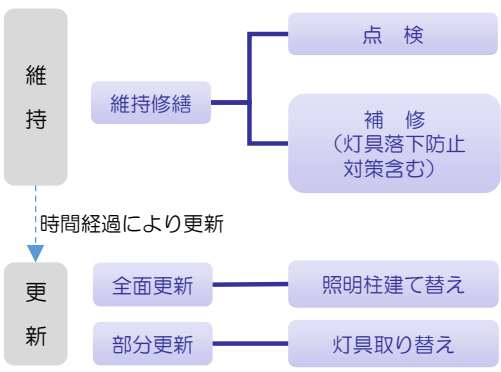
点検による施設の状態把握

実施年度	点検対象 灯数	処置実施 灯数	経過観察 灯数
R元	19,910	3	1102
R2	18,870	6	1071
R3	18,624	0	568
R4	15,295	93	347
R5	18,544	0	124
合計	91,243	102	3,212



4. 対策内容と実施時期

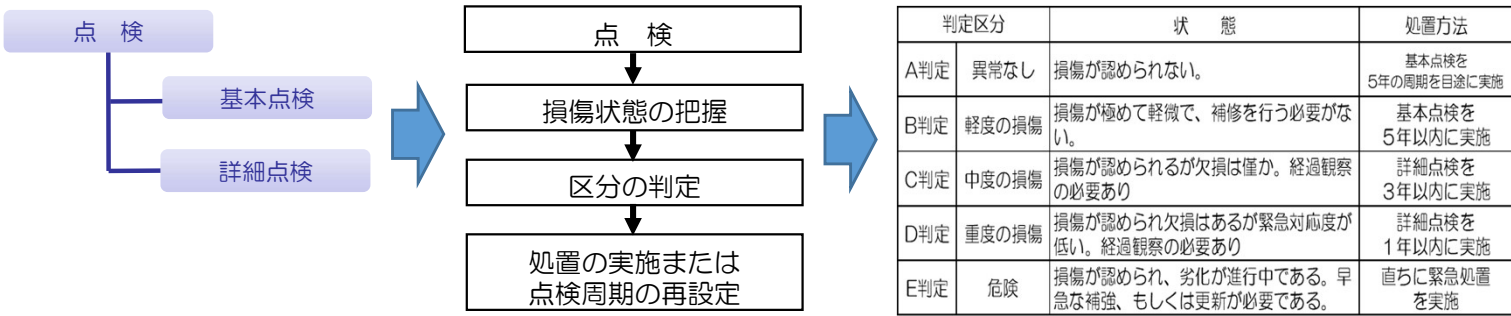
計画の対象となる主な対策



計画期間：令和7年度～令和16年度（10年間）

対策内容	対策期間									
	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度
点検・判定	基本点検 5年の周期を目途に一回実施 詳細点検 劣化度に応じて実施									
補修	灯具交換時落下防止対策 (落下防止ワイヤー等の設置)									
経過観察等	点検結果に基づく補修									
更新	建て替え・LED化									

道路照明灯の機能を維持するための維持修繕として、点検と補修（灯具落下防止対策含む）を実施



点検の様子



支柱鋼材の肉厚調査の状況



高所作業車による点検状況

その他の取り組み

- ① 近年の大気環境の改善を受けて調査検討した結果、道路照明灯支柱の想定耐用年数を45年から60年に変更し、灯具の想定耐用年数は20年とした。
- ② 灯具更新の際には、省エネルギーなどの観点からLED灯の採用を検討する。
- ③ 照明柱更新の際には、更新費用抑制の観点から美装化柱から標準柱に更新する。

5. 対策費用

予防保全（時間計画型）を実施することにより、計画的に更新を進めるが一時期に更新費用が集中しない様に平準化に取り組む。なお、想定耐用年数を45年から60年に見直し、美装化柱を標準柱で建替えることにより、年あたりの更新費用を40%抑制することになる。これにより直近10年間の計画期間内に要する費用は年平均約4.7億円を想定。